

2018年4月6日

株式会社インプレスR&D

<https://nextpublishing.jp/>

自分の技術を形にしよう！この1冊で本が書ける
『技術同人誌を書こう！ アウトプットのススメ』発行
「技術書典シリーズ」最新刊

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&D は、『技術同人誌を書こう！ アウトプットのススメ』(編者:親方 Project)を発行いたします。

『技術同人誌を書こう！ アウトプットのススメ』
<https://nextpublishing.jp/isbn/9784844398202>



編者:親方 Project
小売希望価格:電子書籍版 1500 円(税別)／印刷書籍版 2000 円(税別)
電子書籍版フォーマット:EPUB3／Kindle Format8
印刷書籍版仕様:B5 判／モノクロ／本文 258 ページ
ISBN:978-4- 8443-9820-2
発行:インプレス R&D

<< 発行主旨・内容紹介 >>

【コミケで大好評の「技術同人誌ノウハウ本」が商業化！】

本書は、自分の知見や経験を1冊の本にするためのノウハウを凝縮した、技術同人誌の作り方のすべてを網羅したガイドブックです。技術書典、コミックマーケット(コミケ)を代表としたイベントでの制作・頒布が盛んに行われている技術系同人誌ですが、未経験者にとってはハードルを感じるものです。この本ではそのような初心者が苦労しがちなポイントを始め、企画の立て方や執筆環境、印刷所への発注、さらにイベント後に行う委託販売などについてまで、これまで各種イベントで同人誌を頒布してきた執筆陣が丁寧に解説しています。

(本書は、次世代出版メソッド「NextPublishing」を使用し、出版されています。)

技術者のアウトプットの意義を多角的に解説

第2章 アウトプットを始めよう

本を書くことは実は大きなメリットがいくつもあります。わかりやすい例でいえば、技術書典で出した同人誌が出版社の目にとまって、商業化されるといった事例です。しかしこれに限らず、本章では「アウトプットする」というテーマで、その色々なメリットを説明しつつ、アウトプットの練習方法について紹介します。(Text: enuki0 / 佐々木徹介)

2.1 ブログだって立派なアウトプット

エンジニアとして、日々の困ったことについてその解決方法をブログに書くのも、立派なアウトプットです。筆者は元々アウトプットが苦手だったのを克服する一環として技術系ブログを書き始めましたが、それがたまりにたまっていつの間にか技術同人誌を出すに至りました。ちょっとしたブログなら、書くのは簡単です。もし名前を出すのが恥ずかしければ匿名アカウントでもなんでもいいのです。QiitaやMediumやnoteなど、発表に適した場はいろいろあります。Qiitaは技術に強いコミュニティです(技術的ではない記事は削除される可能性があります)。後者2つは技術系以外も多い総合サイトです。ブログを1本書けば「ブログを書いた」という実績が自分の中でアンロックされます。おめでとうございます!実績がアンロックされる前とは、きっと違うあなたになっているはずです。ブログを10本書けば「10本ブログを書いた」という実績です。最近のゲーム機では当たり前のよう存在する実績システムですが、これは別に聖書の概念でもなんでもありません。ブログという形で1つの記事を書き上げるということは、達成するだけで自分に大きな力として返ってくるのです。また、ブログ経由で執筆のスクアウトメールが届くこともあります。ライターを目指すなら手取り早い手段ではあります。イマドキの編集者は実際にnote.muやMediumをチェックして面白そうな文章を書ける人を探しているのです。

https://note.com/enuki0
https://medium.com/@enuki0
https://note.mu/

2.2 アウトプットで理解が深まる

人に教えると理解が進む、という経験をした人はそれなりに多いでしょう。ブログを書くためには、自分の知識を他の人にも通じる共通の言語・概念・ルールを用いて形にしないといけません。最終でも言語化できていなければブログを書けません。人に説明するために、おそらく普通よりも頑張って調べ物をするところもあるでしょう。これらの行程は理解を深める為にはとても有益なものなのです。

また、自分の書いた記事を未来の自分が参考にすることもあります。僕も随分と役に立っています。

2.2.1 書かないと始まらない

作家の結城浩さんが語る「常に書き、現在の自分の最前線を書け」 - Togetherまとめ
<https://togetter.com/5/117394>

そして思います。文章は、そのつど書かなきゃ駄目というのを、経験を積んでから、十分学んでから、時間ができてから書くのではない。断じて違う。そのつど書く。自分の不十分さをたっぷり自覚した状態で書く。そうでなければ、いつまでたっても書けやしない。

常に書き、現在の自分の最前線を書け。いまを逃せば、いまの自分は書けない。だから、いま、書かないのです。理解も不十分、経験も少ない、世の中もわからない、こんなこと書いたら恥ずかしい、批判がたくさん来るかも、という状態で書かない。いまを逃せば、チャンスはない。

これはほんとにそう思います。下手な時には下手なりに自分の血肉となる何かを残す、というのは重要です。歴史を恐れる人もいますが、犯罪行為を避けば歴史なんて恥ずかしい(可能性はある)だけの取るに足らないものです。当時の自分の切り口を振り返るというのは、じつは後になって大きな資産になるものなのです。

書くことに恥ずかしいとか遠慮とかを持っているならば、なんとかその呪縛を壊せばいいのです。よほど個人情報でも晒さない限りMediumとかQiitaでIDを取って記事を書くだけなら、恥ずかしさは少しでも軽減するのではないのでしょうか?

2.3 インプット・コンピュータ・アウトプットサイクルを刻む

コンピュータの仕事は「入力(インプット)」「演算(コンピュータ)」「出力(アウトプット)」です。人間も同様ではないでしょうか?情報を入力して、その情報を処理(咀嚼)して、それらを文章やソースコード、あるいは他の作品の形でアウトプットするのです。

同人誌の表紙の作り方を各種のパターンを例示して紹介

図6.5 タイムと画像1枚の書籍サンプル



図6.6 1枚の画像を全面に使用した書籍サンプル



第11章 印刷所に頼む上でのあれこれ

原稿本文は出来上がりしました。次は印刷所に発注ですが、発注に当たってハマりやすいことがあります。本章ではそんな落とし穴も通ってきた「勘所」について触れます。初めて本を作ったときに迷った、困ったネタが多く掲載されていますので、まっと役に立つことでしょう。(Text: setoizusa / 大甲浩行、飯方)

11.1 ページ数は4の倍数

平綴じ、中綴じにかかわらず基本的にはページ数の基本単位は4ページとなり、総ページ数は4の倍数になります。これは印刷所が両面印刷する際の最小単位が4ページだからなのですが、この理由で印刷所の価格表は4ページ単位のものが多く、注意が必要です。例えば平綴じで30Pといった4の倍数にならないページ数の場合は、切り上げて32ページの料金になります。

また、表紙は4ページとして数えます。表1(表紙)、表4(裏表紙)、表2(表紙の裏)、表3(裏表紙の裏)ですから、本文に4Pプラスされます。通常、表2、表3は白紙になり、ここに何か印刷する場合は、オプション/追加料金で対応できる印刷所があります。

最終的に本文のページ数が確定したときにページ数が余っていた場合は、なんとか埋める手段を考えましょう。注意・免責事項を改ページする、近況を添用してあとがきを挿やす、何か追加コラムを入れる、などなど。逆に、ページ数を詰めることで調整できる場合もあるかもしれません。

11.2 手元にプリンターは用意しましょう

入稿前に、必ず一度は全てのページを印刷して仕上がりチェックしましょう。予期せぬミスが発見することができます。ノズルが入っていないか、意図しない改ページ(白紙ページの発生など)、文字・画像の切れ、原稿サイズのミス、解像度のミス、その数種々なミスが起こります。しかもいずれもDTPソフト上、あるいはPDFを画面で見ただけではわかりづらいものです。紙に印刷することで、これらのミスを一気にチェックすることができます。

WYSIWYGという言葉があります。What You See Is What You Getで、見ているものと印

刷結果が同じという意味ですが、PCで表示されているものと印刷で出て来るものはかなり一致しません。ですから、印刷してGetできるものとして確認する必要があります。

また、最後に「モノクロ」で印刷して、全ての画像をチェックすると良いでしょう。写真が黒く潰れていたり、色の違うはずの線や文字やグラフィックのプロットが同じくらいの灰色になってしまったりすることがあります。これは、カラー写真のままでは想像しづらいのですが、モノクロ印刷するとよくわかります。本文印刷がモノクロの場合は一度出力してチェックすることをおすすめします。

まずは通して一冊やってみよう

はじめの参加の際に筆者がおすすめるのは、ものすごく余裕のある日程で、ページ数少なくてもよぶくてもいいから一度工程をひととおり体験することです。実際に同人誌を発行している経験の浅者たちはみんな何かしら色々な壁を踏み抜いているものです。

あと画面上で確認するのと印刷するのでは感じが違うこともあります。お試しで印刷できるなら、なるべく印刷した方がいいです。校正に関しても画面より紙の方が移るといふ話はあると思います。

もちろん費用のかかるもので気軽に試すことはできないかもしれませんが、その場合は総の切りをいっそ一ヶ月以上前に設定してみましょう。(Text: setoizusa / 佐々木俊介)

11.2.1 物書きさんにはカラーレーザーがおすすめ

出力テスト用にプリンターは持っていたほうが良いでしょう。最近ではコンビニプリントもありますが、手持ちのプリンターをぜひ用意しましょう。

特に、カラーレーザーがおすすです。ブラザーやNECのカラーレーザーなら、2万円前後から手に入ります。両面や無線LANなど機能追加に応じて若干値上がりします。そして、ぜひ両面対応にしましょう。赤ペンを入れるときは縮小印刷して、赤ペン片手に一気にやるのが一番はやく作業が進みます。

カラーレーザーが良い点を、以下に箇条書きします。インクジェットプリンタに対する偏見も含みます。

1. 速い(安いラインでも20PPMとか普通に行く)
2. 安い。本体1万で2000枚くらい印刷可能。
3. 両面が比較的デフォルト
4. 両面でも、インクが液体じゃないから、裏写りしない
5. 年に数回とか使用頻度が低いと、インクが乾く、ということがない。
6. リサイクルトナーを使えば、もっと安い。

サークルスペース設営例を詳細な図版で解説

当日の設営時は、作業に使えるスペースが狭い

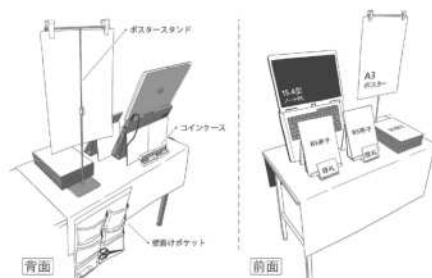
サークルスペースの設営について、自宅でプロトタイプを作成した場合と当日のイベント会場で作成した場合で、大きく違うのは「作業に使えるスペースの広さ」です。実際のサークルスペースは「机の割り当て幅+机の奥行き」の2倍程度の空間、しかありません。長机の半分が1サークルの割り当て幅です。つまり「空間」の横幅は同じ90cm程度、奥行きは机の奥行きである45cmの2倍として90cm程度になります(実際は、2倍に満たない)。機にも縦にも、片手を伸ばすに届いてしまいます。そのくらい狭いです。その「空間」に「荷物+サークル注+メンバー」が入ります。その中で物を出し入れをする困難さ、というのが意外と盲点となります。

「設営のための一時置き場」がイコール「設営すべき机の上」になることも忘れてはなりません。持ち込んだ荷物を全て広げると「設営すべき机の上」が埋まってしまいますので、取り出す順序に注意する必要があります。これがなかなか難しく、「一番下に置くテーブルクロスを取り出し、その上に入っているポスタースタンドを先に取り出して置く必要がある。しかし、その取り出して置く先には先ずはテーブルクロスを敷く必要がある。(そして、最初に戻る)」というようなデッドロックが発生します。当方は、1回目は設営が開始時刻に間に合いませんでした。2回目の参加でも1時間の設営時間のほぼ全てを使うことになりました。

- 2回の参加を経て、私としては次の方針となりました。
- ・荷物はキャリケースで持ち込む(ケースの上部を、荷物置き場として利用できる)。
- ・キャリケースの中には、脱ボールなどを3ボックスくらいに分割して物を入れる(キャリケースから取り出す回数を3回に抑える)。
- ・一番上のボックスにテーブルクロスやガムテープなど、真っ先に使うものを入れておき最初に取り出す。
- ・2つ目と3つ目のボックスを取り出したら、サークルスペースの机の上に積み上げる(箱であれば積めるので、同じ縦横のスペースに、より多くのものを重ねる)。
- ・「設営のための一時置き場」だけでなく、人が動けるスペースも広くはないため、キャリケースから取り出すために回す動作もなるべく少なくしておくことです。早めに全部出してテーブルの一角に積み上げ、それ以降は机の上のみで設営作業の動線を完結させるのがお勧めです。机半分を作業スペースとして持ち物を広げながら、残り半分は積む物やポスターを設置していき、続いて「一時置き場」に使った領域を取り崩しながら、設営を完了していきます。この方針で「設営のための作業スペース」をある程度確保して、設営をなんとか時間内に収めることができました(ギリギリでしたが)。(Text: ほしまだ)

12.7 サークルスペース設営の例

図 12.2 設営の例



上図はサークルスペース設営の例です。実際のイベントで使う長机半分寸法(幅90cm×奥行き45cm×高さ70cm)をおよそ再現していますので、サイズ感の参考にしてみてください。

- ・展示する見本誌やスマホ用PCは立てて設置することで、空間を有効活用すると同時に視認性を高めることができます。
- ・クロスの上に壁掛けポケット(100均で買えます)を貼り付けることで「あの布」のようなものを作れます。

このように、卓上の空間は最大限活用し、イベント中に使う小物類はすぐ使える位置に整理することを意識しましょう。

12.7.1 POPを活用する

サークル主催者のみで参加するいわゆるワンオペの場合、参加者と会話している他参加者に声掛けは出来なくなります。声掛けできなくても本を手に取りてもらえるよう、必要な情報はお品書きやPOPに書き、目立つ位置に掲出しておきましょう。

12.8 告知をしよう

イベント前には必ず事前告知を行いましよう。普段メインで使っているSNSなどはもちろん、

印刷部数の決め方や税金の解説など、あまり書籍化されなかった内容もくわしく解説

17.4 あなたも今すぐ参加しよう！

技術書典グループページ<https://techbookfest.com/pass.com/>や、もくもく執筆会グループページ<https://techbook-meetup.com/pass.com/>に登録しておけば、新刊イベントが開催されたときにお知らせメールが送られてくるのでおすすめです。

17.4.1 ハッシュタグ #techbook_meetup で進捗を共有しよう

「遠方なので、執筆会に参加できない」という方でも大丈夫！ハッシュタグ #techbook_meetup をつけて、執筆の進捗や、構成を練っているときの心境をつぶやきましょう。遠方でも共同作業をしているような感覚を味わえますよ。

17.4.2 すでにあなたも仲間です！

無論ですが、この本を読んでいるあなたも、すでに技術書執筆仲間と言えます。我々は、それぞれ専門分野は違えど心はひとつ、「技術書が好き、作りたいくらい好き」。同人・商業、関係ありません。著書の有無も関係ありません。「技術書を書いてみたい」そう思ったその瞬間から、我々は仲間なので。

名刺を作る

コミュニティに参加したり、オフ会、アフター、もくもく会、その他執筆イベントに参加するようになると、絶対にあったほうが良いのが名刺です。ですので、この欄作ってしましましょう。何も凝ったものを作る必要はなく、ハンドル名、ツイッターIDとかgithubなど、自分がよく使う（他の人からコンタクトされやすい）SNSを載せておきましょう。モノクロでも、著者のデジプレートのままでもとりあえずは問題ありません。作ってあることが重要なのです。

昨今、印刷業界も価格競争が激しく、「名刺」とググれば様々な業者が100枚500円（送料込み）といったべらぼうに安い値段で印刷してくれます。URLを貼り付けるまでもないほど、たくさん業者が引っこかります。どこも大差ないかと思えます。納期も発注から2-3日で届きます。

本業名刺だと、「本名」も勤務先もいるらしてしまいますし、本業名刺には同人活動に関する情報が全く載っていないのであまり役に立ちません。この前のMeetupであったXXさん、フォローしとこう、といったときに役に立たないのです。（Text視方）

りますので、そちらを参考にされることをオススメします。

19.2 税金の計算の基本

この本を読んでいる人（＝技術書を書いている/書こうとしている人）は、基本的にサラリーマンが多いと思います。あるいは、フリーランスとして仕事を持っている方を想定しています。フリーランスの方は、すでに自分で確定申告をしている人も多いかもしれません。しかし、サラリーマンであれば、確定申告は源泉徴収および年末調整で会社が代行してやってくれていて、あまり実感を持ってやったことがないかもしれません。

非常に基本的な話ですが、本業のみの場合の税金の計算は、以下のような手順で行われます。

$$[\text{収入} - (\text{給与} + \text{必要経費}) - \text{必要経費}] - \text{所得}$$

$$[\text{所得}] - \text{所得控除} = \text{課税所得額}$$

所得控除：社会保険料控除、生命保険料控除、寄付金控除など

$$[\text{課税所得額}] \times (\text{税率}) = \text{納税額}$$

給与所得であれば、このような手順で会社が税金を計算し、源泉所得税として代理納付してくれます。したがって、確定申告は不要となります。

ところが、同人活動で収入がある場合は、雑所得として所得が増える事になります。これは、源泉徴収が行われないため、個別に確定申告をする必要が出てくるというカタチになります。同人誌に関する雑収入と雑所得についても、所得とはほぼ同様の式で書くことができ、その雑所得は所得額に加算、課税されます。

$$[\text{雑収入} - (\text{売上} + \text{必要経費}) - \text{必要経費}] - \text{雑所得}$$

$$[\text{給与所得} + \text{雑所得}] = \text{課税所得額}$$

そして、先に述べたように、雑所得が20万円を超えると、確定申告の義務が生じます。

同人活動における収入は、ほぼ単純に売上となります。この売上は、イベント売上、委託売上を含みます。また、寄稿等による原稿料がある場合は、雑収入に計上します。

必要経費は、印刷費、表紙委託等の原稿料、イベント参加費、交通費、搬入・搬出に関する費用などです。これらは必要経費として主張しやすいですね。参考図書、セミナー参加費なども、内容によっては同人活動における経費として算定できるかもしれません。ただし、あまり関係のないもの、あるいは、完全に趣味なものに対する支出は、経費として認められない可能性があります。税務調査が入って、経費が否認された場合には、修正申告、あるいは追徴課税が行われる可能性があります。

また、雑所得と本業の給与収入あるいは事業収入は損益通算できないので、同人活動で赤字計上して本業に關する税金を減らすということではできません。

その上で、確定申告書に記載します。個別案件についての相談については、税理士による相談がありますので、税務署または税理士にご相談ください。

<<目次>>

- 第1章 イベント参加のススメ
- 第2章 アウトプットを始めよう
- 第3章 ネタだし法
- 第4章 本のスタイルはどうすればいいの？
- 第5章 表紙を作る
- 第6章 表紙のお手軽な作り方(macOS 編)
- 第7章 執筆環境
- 第8章 図を埋め込む(macOS 編)
- 第9章 図を埋め込む(Windows 編)
- 第10章 ハンプルのつけ方
- 第11章 印刷所に頼む上でのあれこれ
- 第12章 イベントの準備をしよう
- 第13章 当日朝、開場までの準備
- 第14章 開催中の Tips
- 第15章 イベント後にやること
- 第16章 委託をしよう
- 第17章 コミュニティに参加する
- 第18章 印刷部数とお金の話
- 第19章 税金の話
- 第20章 やる気と次の締切を手に入れよう。
- 付録A Re:VIEW のインストール(Windows 7 編)
- 付録B Word による執筆の流れ

<< 編者紹介 >>

親方 Project

理工学部でレーザーに関する研究室に所属、卒業後は企業の研究所にて計測システムの研究・開発に従事している。レーザーおよび電子工作を扱う同人誌を執筆し、コミックマーケットおよび技術書典に参加している。同人誌執筆において得た知識、実装が本業で活用できることに喜びを感じている。

<< 販売ストア >>

電子書籍:

Amazon Kindle ストア、楽天 kobo イーブックストア、Apple iBookstore、紀伊國屋書店 Kinoppy、Google Play Store、honto 電子書籍ストア、Sony Reader Store、BookLive!、BOOK☆WALKER

印刷書籍:

Amazon.co.jp、三省堂書店オンデマンド、honto ネットストア、楽天ブックス

※ 各ストアでの販売は準備が整いしだい開始されます。

※ 全国の一般書店からもご注文いただけます。

【株式会社インプレス R&D】 <https://nextpublishing.jp/>

株式会社インプレス R&D（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井芹昌信）は、デジタルファーストの次世代型電子出版プラットフォーム「NextPublishing」を運営する企業です。また自らも、NextPublishing を使った「インターネット白書」の出版など IT 関連メディア事業を展開しています。

※NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少数種の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知識の流通を目指しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479)を
持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105

TEL 03-6837-4820

電子メール: np-info@impress.co.jp